

年 組 名前：



2025年度の加入を目指すことを説明する山梨県民球団の加藤幹典社長（中央）と
榎良尚会長（右）ら

独立リーグ

県民球団25年加盟へ計画 試合会場の確保課題

プロ野球独立リーグ「ルートインBCリーグ」に準加盟している山梨県民球団は30日、県庁で会見を開き、2025年度のリーグ加盟を目指し、会社組織化したことや今後、独自のトライアウト（入団テスト）などを進める計画を発表した。当初、24年度の加盟を目指したが、リーグは試合会場確保の見通しが立っていないことなどを理由に加盟を認めなかった経緯があり、今後、関係機関との調整が焦点となる。

〈市川和貴〉

会見では、加盟を目指す総合保険代理店事業などを手がける「ほけんのぜんぶ」（東京都豊島区）が、11月13日に山梨県民球団準備会社を設立したことを報告。会長を同社の榎良尚会長、社長を元プロ野球ヤクルト投手の加藤幹典さんが務めるとした。

試合会場の確保について、加藤社長は「野球に関係する方々には参入をすると決めた段階で説明させてもらっている」と話した。山梨県スポーツ協会によると、ホームグラウンドの一つとして考えている山日YBS球場はシーズン中の土日、祝日の稼働率はほぼ100%。加藤社長は「迷惑を掛けられないためにナイター（での試合）を考えている」とした。山日YBSのほか、富士北麓球場、南アルプスジツスタジアム、楽山球場を考えているという。

計画によると、チームは24年度に始動。来年1月に1次トライアウトを実施し、実技または自己PRと技術を撮影したオンラインで選手を募集する。30〜40人に絞り込み、2月の2次を経て、ボジションのバランス考慮して15人程度を獲得する。最低限の野球技術が必要とするが、球団や山梨の広報活動を合わせて行う「エンタメ枠」も設ける。

選手は「ほけんのぜんぶ」が雇用するほか、現在の職場で継続して働くことも可能とする。今年12月1日に球団名の公募を始め、25日に決定。球団のロゴ、ユニホームは3月ごろ発表する。

24年度、チームは主に土日と祝日に活動。県内の高校や大学などで練習、平日は各自での練習を検討している。独立リーグチームとの交流戦を行う。会社は、試合会場の確保を進め、活動実績をBCリーグに報告する。

(2023年12月1日付 山梨日日新聞13面)

問1 山梨県民球団が、2024年度にリーグ加盟できなかった理由を教えてください。

.....

問2 2024年度に獲得する選手は、どのような活動をしますか。

.....

問3 あなたが、山梨県のプロ野球チームに、期待することを書いてください。

.....